

議会だより



第147号

平成28年10月25日



初めての被災道路の啓開訓練

決算特別委員会に付託	27年度決算	2
クヌッセン絵画コンクール	補正予算	3
防災コミュニティ公園は必要か	一般質問	4~6
小学校の統廃合について	委員会レポート	7~8

決算特別委員会を設置

一般会計歳出決算 41億1,737万円
特別会計歳出決算 23億8,464万円

主な特別会計歳出決算額の内訳

国民健康保険特別会計	10億8,818万円
下水道事業特別会計	3億5,559万円
介護保険特別会計	7億7,076万円
後期高齢者医療特別会計	1億7,011万円

水道事業会計 1.323万円の赤字決算

※ 昨年度は 5,245万円の赤字決算

平成28年第3回定例会は9月12日から23日まで12日間の会期で開催した。今定例会では決算特別委員会を設置し、平成27年度一般会計、特別会計、水道事業会計の決算認定7件をこれに付託して審査することにした。

この他、平成28年度補正予算、条例等議案5件、同意1件が提案され、慎重審議の結果、原案の通り同意可決した。

監査委員の意見

審査の意見

歳入面において、厳しい経済情勢の中、町税は幾分減少しており、国民健康保険税及び料については給付等が増加傾向にあり、その状況は依然きびしい。税・料における収入未済額の一部が長期化・固定化しており、引き続き最大限の徴収努力を望む。

一般会計について

財政調整基金9千7百万円の積み立て、実質収支額2億3千万円の黒字決算である。しかしながら、依然として依存財源による財政事情には変わりない中で、経常収支比率が高い状態が続くことが懸念される。

下水道事業について

内原東処理区の接続率は向上しているが、他の処理区と比較すると低い状態にあり、新規加入と接続率向上の促進に継続的な努力を求める。

水道事業について

有収率が前年度に比べ4%向上し、その後も同水準を維持しているが、経常利益は赤字決算となっている。前年度からの改善は見られるが、更なる経営改善に取り組まれない。

平成28年第1回臨時議会

平成28年8月4日、工事請負契約について、他1件の議案を審議し、原案の通り可決した。

工事請負契約の締結

保健福祉総合センター空調改修工事
 紀南電設株式会社 4168万8千円
 工期 平成29年1月6日

28年度一般会計補正予算

既定の予算額に6056万1千円を追加し、43億4176万8千円とする。

主な内容はクヌッセン機関長殉難60年絵画コンクール事業30万7千円、水防倉庫等整備設計委託料303万9千円、志賀保育所駐車場整備用地購入費及び建物補償費1413万2千円、B型肝炎予防接種委託料103万7千円、国保日高総合病院負担金3257万円、浄化槽設置整備事業費補助金81万円、小規模土地改良事業費240万円、温泉館薪ストーブ設置設計監理委託料及び工事費384万5千円等。



移転新築される水防倉庫

問 志賀保育所駐車場用地購入は6月議会の説明どおりか。

住民福祉課長 購入後、農振地の除外申請をする。除外申請は半年ぐらいかかり、用地の整備等は来年度の当初予算にあげる。

問 田と宅地があるが、それぞれの単価と面積、それと建物補償費の単価と面積の説明を。

住民福祉課長 田は㎡当たり1万4千円で207・31㎡、宅地は㎡当たり2万3千円で309・75㎡、建物本体は27・25㎡で385万7700円、工作物等で24万6400円である。

問 水防倉庫等整備計画委託料の説明を。

総務課長 今回の水防倉庫の設計については、来年度の役場北側の駐車場整備地内に計画している。既設の水防倉庫は、昭和56年に建築されたもので、老朽化が目立ってきている。その倉庫を駐車場の東側に移転することによって、新しく買っ

た駐車場用地の面的利用がかなり良くなるため計画をした。新しい水防倉庫は273㎡を建築する予定である。

問 B型肝炎予防接種が定期接種となったということであるが、その対象者は。

健康推進課長 平成28年4月1日以降に生まれた0歳児である。1歳に至るまでに3回接種することとなり、本年度については、4月～8月生まれが3回、9月～12月生まれが2回、平成29年1月生まれが1回接種の予定となっている。

問 温泉館の薪ストーブは県のグリーンニューデール基金を活用して設置するということであるが、これは当初より温泉館から要望があったものか。

産業建設課長 温泉館から要望があったのではなく、県から要望調査があり要望したところ、県に採択されたものである。

問 薪ストーブは何ヶ月利用するのか。また、その暖房効果は。

産業建設課長 12月～2月まで利用する。100㎡～200㎡分の暖房効果があり、この暖房を電気エネルギーに換算すると、約20万円の電気代が節約される。

問 クヌッセン機関長の絵画コンクールの出品の対象者は。また、その事務局はどこが行うのか。入賞作品の展示など決まっていることはあるか。

総務課長 対象者は、小学生は4年生以上、中学生は全員である。受賞者には、表彰状を授与し、額縁と図書カードを贈呈する。当選された作品は、大使館で展示される。その他については、検討中である。

問 美浜町と日高町でつくっているヨハネス・クヌッセン機関長遺徳顕彰会で事務局を行う。



殉難60年を迎えるクヌッセン機関長

未来をきずく

Q & A いっぽん質問

防災コミュニティ公園は必要か

町長 任期中に目途をつけたい

榮 茂美 議員



町民の生命を守るため、また家屋が被災し帰るべき家を失った方への仮設住宅の建設用地として、利用可能な公園を整備したい。

榮 町長の公約である防災コミュニティ公園の実現は、いつになるのか。

町長 平成31年度を目標としている。

榮 平成30年の町長選挙では、この防災コミュニティ公園の実現が、一番の公約となるのか。

町長 現時点では、着々と一つひとつ、私の公約を実現させていきたいと言えない。

榮 これからのタイムスケジュールは、どうなっているのか。

町長 公園整備の適地選定と有効な補助事業の



公園整備の単独事業を求む

有無などについて、様々な角度から検討を行い、今任期中に目途をつけた

い。

榮 今任期中に、用地選定と財源確保の目途をつ

け、町長2期目で、基本設計を行い、地権者への説明と平行して実施設計、用地買収の後、工事に着手するということか。

町長 できる限り、今任期中に努力をしていくと

榮 3月議

会で言われ

た「内原地

区内で、約

2ha位の用

地」という

考えに、変

わりはない

か。 町長 そう

榮 御坊市は、来年秋にこの事業の実施を予定し

町長 この事業は、今後必要となるサービスであると認識している

ファミリーサポート センター事業の実施を

榮 防災コミュニティ公園内に、何か施設の建設は考えているのか。

町長 防災倉庫等は考えているが、基本的には、芝生の広い場所を第一に確保しておく考えである。

これから調整しながら進めていく。

榮 防災、公園、コミュニティーといったものは、近くで歩いていけるのが一番だと思う。

町長 私の公約でもあるし、今回の計画について、考え直すつもりはない。

榮 大変期待しているの

で、ぜひ頑張ってもら

たい。

町長 御坊市とは、すでに事務レベルでの話しは

行っており、できるだけ

早い段階で参加できれば

と考えている。

町長 日高町も、そこに

参加できないか。

榮 御坊市とは、すでに事務レベルでの話しは

行っており、できるだけ



辻村 昌宏 議員

地方創生、周辺自治体との連携を 町長 できることがあれば取り組む



観光の起爆剤に

「町として特に力を入れようとする施策」は、平成27年度から平成31年度までの5力年間で取り組む施策をまとめたものであり、それぞれの分野で、それぞれの基本目標に向けて積極的に取り組んでいくこととなり、

辻村 まち・ひと・しごと創生法の基本理念の中には、地方公共団体相互の連携とが、国・地方公共団体及び事業者が相互に連携をとることが掲げられている。近隣の首長同士で、地方公共団体の連携というふうなことが話題になったことはあるのか。

町長 町村会においては、地方創生総合戦略のことで、共にいろんな形で取り組んで行こうという話は、今のところはない。

辻村 人口減少を食い止める、人口を増加させる、人を集めるためにはどうしたらいいかと考えた時には、仕事がないとすれば人は集まらないと思う。以前から日高港湾のことに ついて、起爆剤にならないのかと考えている。観光の拠点として、物流の

辻村 今年3月に「日高町まち・ひと・しごと総合戦略」が策定され、地方創生に向け積極的に取り組むとのこと。町として特に力を入れようとする施策は。

町長 「総合戦略」の策定にあたっては、国の「総合戦略」における基本的な考え方や、県の「総合戦略」も勘案して

策定した。その際、現行の「第五次日高町長期総合計画」をベースに、将来の人口減少予測や地域経済縮小の克服をはじめとする地方創生の取り組みを推進するため、本町の実情や特性などを踏まえて、具体的な施策を明記したものである。



上空から見た日高平野

拠点としての意識を持っていると、いい知恵が出てくると思うが。

町長 日高港湾について取り組んでいってはということであるが、各地を観光の面で繋ぐということはあると思う。日高圏域の中で、半日なり1日過ごされるということが大事になってくると思うので、そういうことを今後取り組んでいきたい。

辻村 いろいろ難しい面もあると思うが、周辺自治体とも協力とか連携をとりながら、よろしくお願いしたい。

町長 日高町だけでは、なかなか町づくりというのは進まないの、周りの市町とともにやっていくべきである。現在は、各町でも、まち・ひと・しごと総合戦略について取り組んでいるところがあるので、今後は、各市町の首長と話をしながら、できることがあれば取り組んでいけるかどうか話をしていきたいと思う。

西岡 佳奈子 議員

就学援助の要件が厳しいのでは 教育長 困窮していれば十分配慮する



就学援助の充実で安心して学べる環境を

西岡 就学援助費の準要保護世帯の対象者の基準は、必要とする児童生徒に援助がおこなわれているか。

教育長 要綱では「生活保護に準ずる程度に困窮し、教育委員会が就学援助を必要と認める者及び児童扶養手当を受給している者」と規定している。

制度の周知をおこなった上で問い合わせや申請にこられた保護者の方々に適宜対応している。

西岡 困窮の状態について、教育委員会はどのように判断するのか。

教育長 学校での様子や福祉関係機関との連携等を大事にして認定をして

いく。

西岡 収入の基準を定めること、十分に相談にのることの両方の考え方が必要。

たとえば、和歌山県内では市町村民税非課税世帯への援助が21の自治体でおこなわれている。また、国民年金保険料の免除世帯や国民健康保険料の減免や猶予の世帯への援助、生活保護の基準額に一定の係数をかけたものなどという形で援助を実施している自治体もある。

日高町での生活保護の基準額は、例えば4人世帯(父40歳、母35歳、子ども14歳、9歳)で15万1870円で、この金額に医療費や家賃などが加わる。参考にした上で、援助の収入の目安を設けておくのも一つの方法だと思つが。

西岡 学校及び各関係機関と十分連携をとりながら、教育委員会が判断をしている。

全国平均から見ても低いが、要件が厳しいからではないかと思うが。

しながら、本当に困窮しているのであれば、十分な配慮をしていく必要があると考える。

投票所の改善を

西岡 総務省「障がい者に係る投票環境向上に関する検討会」より、「投票所の段差の解消や適正なスロープ設置、介助体制の整備・周知、車椅子での利用環境の整備、代筆投票が可能であることの周知や、投票所への移動が困難な人の投票機会の確保など」が要請されている。日高町の投票所の状況は。

選挙管理委員長 16の投票所があるが、半数以上の投票所で、入り口の段差解消、もしくは簡易・常設のスロープを設置している。今後も簡易スロープの設置や、投票事務従事者による介助など、対応していきたい。

西岡 物理的な段差は、スロープや手すりなどに対応していただきたい。

また、書くことが不自由な場合には代筆の制度があること、投票所内の段差で上に上がれない場合には、上がらずに入口付近で目かくし板を用いて記載できること、職員の人的な介助が可能などなどの周知を進めていただきたい。

投票者への移動支援に国からの費用が出るようになったことから、投票所への送迎バスやタクシーなどの取り組みをおこなった自治体について報道がされていた。日高町でも検討の必要があるのではないかと。

選挙管理委員長 十分検討していきたい。また、制度の周知については、選挙ごとのチラシ等に記載するなど、安心して投票できるよう取り組んでいきたい。

委員会レポート

産業教育常任委員会

産業教育常任委員会は去る8月24日、北海道南幌町の小学校の統廃合についての視察を、また、9月6日、日高町第一学童保育所建設工事の進捗現場視察を行った。

北海道南幌町 小学校の統廃合

南幌町の視察では町長、議長、教育長同席の下、生涯学習課課長より小学校統廃合の歴史に始まり

平成24年4月の3小学校【統廃合前、南幌小18名、夕張太小53名、みどり野小161名、統廃合前計402名】の統合に至る経緯、廃校になった2校の建屋有効活用などの説明を受けた。

南幌町は一時、3校で1千人を超える児童数であったが、バブル経済崩壊後、平成19年にはピーク時の半分以下まで減少するという状態になり、統廃合の議論が始まったとのことであった。

固定資産評価審査委員

固定資産評価審査委員に力津俊博氏を新たに選任したいと議事に同意を求められ、議会は同意した。



力津 俊博 氏
(志賀)



小学校の統廃合について説明を受けた

その後、平成21年度に南幌町小学校適正配置等検討委員会が設置され、基本方針が答申された。今回の視察では基本方針のうち「適正規模」、「適正配置」、「適正配置を行う場合の配慮事項」、「具体的な適正配置」などについて説明を受けた。

「適正規模」としては1学年2学級以上で12学級〜18学級が適当であるとのことであった。委員からは統廃合についての考え方はどうであったかの質問に、「様々な反対の声もあったが将来の子ども達にとつてどうあるべきか。」(町長)、「子ども達により良い教育環境を与えるということから一貫してブレなかった。」(教育長)との声に委員一同、感心させられた。

総括として南幌町は人口7857人、統廃前は日高町と類似した点多く、将来、小学校統廃合



問題となっている国道42号との接合地点

の問題になった時には見習うべき点もあり、意義のある視察であったと考える。

第一学童保育所 工事進捗状況

日高町第一学童保育所建設工事の進捗について教育課長より委員会室で説明を受け、現場視察を行った。侵入路について現

在の3メートルから5メートルに拡張予定だが、国道42号との接合地点にボックスカルバートがあり、20センチ程度下げなければならぬ問題があるとのことであった。出入り口のため資機材搬入など工事に遅延をもたらす可能性も危惧するが、平成29年4月開所予定に間に合うよう、接合地点の国との協議の早期解決を期待する。

委員会レポート

総務福祉常任委員会

特定健診の
受診率向上に
むけて



総合保健福祉センター（りふれ）の温水プール

当委員会は、去る8月24日北海道夕張郡長沼町役場、並びに長沼町総合保健福祉センター「りふれ」において、特定健診の受診率向上に対する取り組みや健康づくり推進事業についての視察を行った。当日は、長沼町長を始

め同町議会議長や担当課長の出迎えを受け、担当職員から同町における健康増進に向けた取り組みについて説明を受けた。その後、長沼町総合保健福祉センター「りふれ」に移動し、同センターの施設概要について説明を受けた。

特定健診の受診に関しては、平成26年度の受診率は日高町では33・1%に対して、長沼町では受診場所が1カ所にもかかわらず53・7%と大きく差があった。長沼町の取り組みとしては、町内を44区に分け、地区ごとの受診状況を把握し、目標数値に達しているかどうか、昨年度より向上しているかどうかなどを数値化して管理していた。

6名の保健師が分担して各地区を指導し、未受診の方へは担当の保健師が出向いて受診を促すなど、積極的な対応を行っていた。また、受診時には、次回（翌年度）の受診予約を入れてもらい、受診率の維持向上に向けて取り組んでいた。



トレーナーの指導を受けられる施設

町民の健康づくりの推進と住民福祉の増進を目的として同町が行っている「健康づくり推進事業」は、町内の温泉施設やプール、長沼町総合保健福祉センター「りふれ」などを利用する際の利用料に対して助成を行うものである。

65歳未満の町民には7000ポイント、65歳以上の町民と身体障害者の町民には14000ポイントを付与し、1ポイント1円として利用できる。事業予算額は26年度

が約2800万円、27年度で約3200万円と、かなり高額な予算ではあるが、健康増進に寄与する町内施設の積極的な利用を推進していた。

委員会としては、保健師の未受診の方への積極的な対応など、健康に対する意識の高さがうかがえたことに対して見習うべきであると感じた。

特定健診の受診率を長沼町のように50%以上にするのは、今すぐには無理であるが、町民に対して「自分の健康は自分

で守る」という認識を持ってもらう活動をしてもいい、受診率アップに繋がるよう、職務に励んでいた方がいいものである。

編集後記

去年のいま頃は4年ぶりにわかやま国体が開催され、わが町もホッケー会場となり、大盛り上がりでした。議会においては33年ぶりとなる決算特別委員会を設置しました。

議員一人ひとりが町民の負託に応えられるよう日々精進しており、これからの日高町の活性のため頑張っていくしますので、よろしくお願ひします。

さて、例年以上に暑かった夏が終わり、気が付けば秋。秋と言えば食欲の秋、そして祭りのシーズンです。各地区で太鼓、笛の音色が聞こえてきます。心が高ぶってきます（笑）皆様方、飲みすぎには注意しましょう。

芝 充彦

